

**「便利」とは何か、自分で考えたり、友達と話し合ったりすることを通して、「便利」について
多角的に考える授業**

第4学年2組 国語学習指導案

指導者 島田 理央

1. 単元名 発明！便利なもの

2. 学習材 『「便利」ということ』（教育出版 4年国語下）

3. 単元について

（1）本単元でつけたい力

本単元では、主に、小学校学習指導要領・国語〔第3学年及び第4学年〕の「C 読むこと」における以下の能力を身に付けさせることをねらいとしている。

C 読むこと

- | | |
|----|---|
| 内容 | ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 |
| | オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 |
| | カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 |

- | | |
|-------|--|
| 言語活動例 | ア 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 |
|-------|--|

本単元では、教科書の文「便利ということ」を読んだり、友達と話し合ったりすることを通して、文章中で筆者の伝えたいことを捉えることをねらいとしている。

（2）本単元で行う言語活動

本単元では、障害のある人や利き手があるといったような様々な立場の人が、日常生活の中で困りそうな場面を予想し、こんな物があったら便利だなということを発表し合う言語活動を行う。そのために、まず、教科書の文章中で筆者の伝えたいことを捉えることが必要となってくる。筆者の伝えたいことを捉えてから学習を行っていくことで、今の自分の考えが教科書の大事な文と違っていないかを確認しながら話し合いや発表をすることができる。

導入では教師が作成したモデルと出合わせる。教師のモデルと出合わせることで、子どもたちは単元のゴールがわかり、この先の学習の見通しをもつことができる

発表をする際には、個人のタブレット内にある SKY メニューのシンプルプレゼンのソフトを使用する。このプレゼンソフトでは、簡単な文字を打ったり写真を貼ったりできる。主に写真を貼る機能を使用していく。発表のために使う写真は、学校内と家庭で収集するようにする。これらの写真と自分で考えた文章とを合わせて、「発明！便利なもの」を作成する。

発表は、ペア→クラス→学年と広げていく。発表を広げていくことで、一人一人の「便利」についての感じ方・考え方に違いがあることに気付いたり、互いに文章の要旨に沿った発表ができているかを確認したりすることができる。

（3）学習材について

本教材文は、「話題の提示→具体例→まとめ」という尾括型の構成をとっている。段落相互の関係に気をつけながら理解する力を育むことはもちろん、これまでに学習した、写真などの非連続テキストと文章を結びついて読む力を活かすことができる教材である。それに加え、自分の経験と結びつけて文章を読むことも意識させたい。筆者が取り上げている具体例と自分の生活経験を照らし合わせたり、筆者の思いや考えに対し、自分の考えをもったりする力は、高学年になるにつれて必要となる。また、立場や見方を変えて物事を捉えることの重要性を学び、自分とは違う立場の人を思いやる共生の視点を身につ

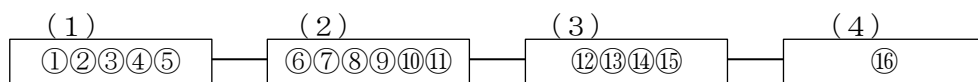
けさせていきたい。

文章構成については以下の通りである。全体で16段落、4つの大段落からなる尾括型の課題・回答型の文章である。はじめに、耳の不自由な人に合わせて改良された玄関チャイムを「どう、便利でしょ。」と言った女性の言葉と思いが紹介されている。これに対して筆者は、光で知らせるチャイムの話のように、使う人の立場によっては、道具の仕組みを変えなければ役に立たない場合もあり、ある人にとっては便利だと思われる物でも、立場を変えてみると、その仕組みのままでは不便であると述べている。また、少し前の時代と今ではそのような考え方が変わってきていて、同じ目的を果たす道具が、さまざまな立場の人に合わせて何種類もつくられるようになったと、考え方によって作られる物も変わってきたというような内容も書かれている。教科書には、そのような考えに対応する何種類ものはさみと包丁の写真も取り上げられている。

更に、設備がもつ問題と解決の方向が示されている。設備は道具のように何種類も立場に合わせてつくることが困難なので、不便を強く感じる人が少なくなるようにつくったり、改良したりしていくことが必要である。具体的に階段の代わりにゆるやかな坂にしている歩道橋や、エスカレーターやエレベーターが付いた歩道橋がつくられているといったような具体例が提示されている。

最後に、これまでの具体例に即して述べられてきたことが一般化され、筆者の主張としてまとめられている。文章構成図は以下のとおりである。

文章構成図



本学習では、「便利」という一つのキーワードについて多角的に考えていく。教材文も様々な立場から、「便利」について考えることが書かれている。一つの物事・事象について時間をかけてじっくりと考えたり、友達の意見を聞き、自分の意見と比べて考え直したりすると、様々な見方・考え方をすることもできると考える。

(4) 子どもの実態 (男子13名 女子16名 計29名)

本学級の子どもたちは、総合的な学習の時間で「食品ロス」について学習をしており、SDGsについても触れている。その際、生態系から働き方、文化まで幅広いジャンルの多様性についても学んでいる。様々な事への多様性を考える素地はできていると考えられる。また、タブレットの操作についても学習をしており、Wordで文章や写真を編集したり、発表ノートを使って全体の前で発表したりする活動も行ってきた。本単元でも、自分たちでタブレットを使って資料を集めたりプレゼンテーション資料を作成したりすることができると考える。

1学期には、「花を見つける手がかり」の学習を行った。その際には、実験の方法・結果・筆者の考えの観点について、文章を引用しながら説明をする言語活動を行った。その中で、文章を引用して自分の考えと関連付けながら説明をする姿が見られた。しかしながら、説明をする文章が書けない子が数名いた。中心となる語や文を意識ができていなかったからである。そこで、本単元では教材文の「便利ということ」を読む際には、筆者のまとめ「だれにとって便利で、だれにとってそうではないのかを、また、どのようなときに便利で、どのようなときにそうではないのかを、よく考えていくことが大事なのです。」に読みすすめていくとつながる語、「それぞれの立場」「仕組み」「目的」に着目させて、着語読みを行ったり、子どもたちが話し合う活動を行ったりする。

今年度から国語科と算数科は教科担任制となり、両クラスとも同じ教師が指導に当たっている。1学期に取り組んだ「花を見つける手がかり」の新聞作りでは、それぞれのクラスで作った新聞を使って交流させ、友達の良いところや、改善点を見つけている。「ぞろぞろ」の学習では、最後に読書発表会に取り組んだ。読書発表会でも同様に、両クラスで交流をした。子どもたちは、考えを伝え合ったり、発表し合ったりする活動に意欲的に取り組んでいる。

国語科だけではなく、学習への意欲はとても高く感じる。発表も積極的で、聞く側も友達の発表に付け足して発表をしようとしている。瞬間的な単発の発言は活気づくが自分の考えや思いを筋道立てて人に伝えることの意義や重要性にも気づかせていきたい。発表をする前に、どのように友達に伝えようか話の内容の構成を考えさせたり、黙考の時間をとって話す内容を整理させたりしながら授業を進めるようにしていきたい。

(5) 指導観

〔見出す〕

□本時（本単元）の目標（めあて・ねらい）を児童に明示する。

①学習の見通しをもたせ、主体的に学習に取り組ませるために、子どもたちと単元計画をつくる。

第1次では、教師が作成したモデルを提示し、子どもたちに「自分も書いてみたい」という意欲をもたせる。教師モデルに書いてある内容を分析し、「発明！便利なもの」をつくるためにはどうしたらよいのか考え、学習の計画を一緒に立案していく。学習の計画を立案する際は、教師が作った「発明！便利なもの」を作成するためには、どのような活動をしていけばよいかと発問をする。

作成した学習の計画をクラスに掲示しておくことで、学習の見通しをもたせ、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

〔見出す〕

□児童が課題を明確にすることができるように、疑問を整理して焦点化する

②子どもたちが、教科書を読む時に必要な語や段落に意識できるようにする。

平成から令和の時代を生きる子どもたちの周りには、「便利」な道具・設備が身近にあり、子どもたちにとって切っても切り離せない存在である。不便な物は、思考し改良されすぐに「便利」な物が発明される。「便利」という概念がどういった変容を遂げてきたのか知らない子どもたちにとって、「便利」について考えることは、容易ではないと考える。

そこで第1次では、教材文と出合う際に着語読みをすることで、便利について全員が考えられるようにする。教材文には、筆者の考えがいくつか書かれているが、全ての事柄は大段落④の「ふだんなにげなく使っている道具やせつびが、だれにとって便利で、だれにとってそうではないのかを、また、どのようなときに便利で、どのようなときにそうではないのかを、よく考えていくことが大事なのです。」の一文につながっていることに気付かせていきたい。また、文章中には、「それぞれの立場」「仕組み」「目的」という語が筆者のまとめの文章に深くつながっていると考えている。なので、着語読みをする際にはこれらの語を意識して読ませるようにする。

〔自分で取り組む〕

□児童が自ら情報を収集し調べることができるように、環境等を用意する。

②タブレットで動画や写真を撮ったり、インタビューをしたりして情報を集めさせていく。

今年度から、GIGA スクール構想により1人1台タブレットが配備された。それを活用して、学習を通して「便利」について自分なりの考えをもった子どもたちが、発表をする際に使う資料（道具・設備を撮った写真や動画・インターネットを使って調べた情報）をタブレットを使って収集させていく。家庭でもタブレットが使えるようになっているので、自分が好きな時に使って情報を収集できるようにSKYメニューにフォルダを作成し、保存できるようにしておく。収集させる時に、筆者の考えのように「だれにとって便利で、だれにとってそうではないのかを、また、どのようなときに便利で、どのようなときにそうではないのか」の視点をもちながらも収集させるように教材文を意識して収集させるように話を進める。

しかし、自分でどんな情報を集めて良いかわからない児童には、あらかじめ国語部会の教員に質問に行かせるようにする。先生方には、あらかじめ授業で発表できるような資料を提供しておく。そして、子どもたちに教える資料は被らないようにして子どもたちの発表の場で、色々な「便利」について考えを広げ深められるようにしていく。

収集した情報と学習から身に付けた「便利」に対する定義、自らの生活経験とを関連づけて文章を考え発表をする。伝えたいことをわかりやすく発信するためには、どの資料をどのように活用するかを考えさせることも大切にしたい。

〔広げ深める〕

□児童が多様な考えを理解できるように、互いに学び合う場面を設定する。

③友達の意見と自分の意見とを比較させ、新たな考えを生み出したり、考えを深めたりする。

本単元でも、ペア→クラス→学年と発表の機会を広げていく場面を設定する。

9時間目には、クエスチョンカンファレンスを用いて、友達と質問をし合う学習を行う。クエスチョンカンファレンスを通して、自分の「発明！便利なもの」の良いところや改善点を改めて考え直したり、友達の発表を聞いて「便利」についての考えの視野を広げることや、発表の良いところを見つけて自分の発表に生かしたりできるようになることをねらいとしている。

10時間目11時間目の発表会では、聞き手はA4の用紙を3分割にした短冊に友達の発表を聞いて良かったところを書いていく。そうすることで、発表者だけではなく聞き手も集中して発表会に臨むことができる。また、その短冊を授業後に返すことで自分の発表を客観的に捉えられ、次の発表に生かしたり、賞賛された言葉を見て満足感や成就感を得られたりできるようにする。

4. 単元の目標

【知識・技能】・・・㊦

○教材文「便利ということ」には、文章全体として何が書かれているのかを捉えて音読をすることができる。
(1 (1) ク)

【思考・判断・表現】・・・㊦

○教材文「便利ということ」を読んで、3つの道具や設備の例と筆者の伝えたいこととの関係を、叙述を基に捉えることができる。
(2C (1) ア)

○教材文「便利ということ」を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
(2C (1) オ)

○クエスチョンカンファレンスの手法を用いて行う対話や、発表会を通して、「便利」に対する意見や考えを伝え合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができる。
(2C (1) カ)

【主体的に学習に取り組む態度】・・・㊦

○「便利」とはどういうことなのか関心をもって文章を読もうとしたり、身の周りにあるものや場所に目を向けて、「便利」について考えたりしているか。

5. 全体指導計画（14時間扱い）

次	時	主な学習活動		○教師の留意点 ☆評価（方法）
第1次	1 本時	着語読みをして、文章中で筆者の伝えたいことを捉える。 教師モデルと出合い、単元のゴールを知り、学習の見通しをもつ。		○着語読みによって、文章の言葉について説明を加えながら読んだり問いかけたりして、文章に書いてある内容の大体を捉えさせる。 ☆「便利ということ」を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。 (㊦ノート・発言)
	2 ・ 3	「便利ということ」を読み、筆者のまとめに繋がる文を叙述を基に探す。	発表に使う情報（写真）を個人のタブレットに集めていく。	○大事だと思った文章にサイドラインを引かせながら、便利・不便など立場の違いをノートにまとめさせるようにする。 ☆筆者の伝えたいことと、文章全体の大体を読み取ることができる。 (㊦ノート・発言)
第2次	4	筆者の伝えたいことは、提示されている3つの例と関連しているか、話し合う。		○道具や設備と筆者の伝えたいことは、関連しているか、写真と文章で確認をさせる。 ☆筆者の伝えたいことと、3つの例が関連をしているか、正確に読み取っている。 (㊦ノート・発言)

	5	筆者の伝えたいことやまとめの文章を基に発表をするための情報（写真）を集める。		○前時までに捉えた筆者の考えを基に、発表をするための写真を、校内をまわりながらタブレットを使って探させる。 ☆筆者の伝えたいことを基に、写真を集めている。 (㊟タブレット)
	6・7	「発明！便利なもの」の文章を書く。		○タブレット内に集めた、写真の中から一つを選んで、筆者の考えを基に発表をするための文章を書かせる。 ☆書く内容の中心を明確にして、教科書の文章を引用しながら「発明！便利なもの」の文章を書いている。 (㊟ノート)
	8	自分で考えた文章と集めた情報（写真）とを結びつけて「発明！便利なもの」の資料を作る。		○自分で集めた写真と、考えた文章とをつなげる言葉を考えながら、「発明！便利なもの」の資料を作成させる。 ☆読み手を意識しながら、発表をする際に話す言葉を考えながら、資料を作っている。 (㊟「発明！便利なもの」・発言)
	9	「発明！便利なもの」の資料を使って友達同士で交流をする。 ・クエスチョンカンファレンスをして交流をする。 クエスチョンカンファレンスの質問項目 ① どうしてこの道具を発明したの？ ② 1 番伝えたいことは何？ ③ 何点？ ④ 困っていることはある？ の 4 項目を質問し合った後に、フリートークを行う。		○カンファレンスの質問項目に沿って、自分がその資料を作った思いを伝え合わせる。 ☆友達と「発明！便利なもの」を発表し合い、自分や友達の資料や発表の良さに気付いている。 (㊟ノート・発言)
第 3 次	10	「発明！便利なもの」の発表会をする。 ・クラスで行う。		○大型モニターを用意して、発表をする際に全員が資料を見やすい環境をつくる。 ○友達の発表を見たり聞いたりする観点をはっきりさせる。 ○A4 用紙を 3 分割にした短冊を用意して、友達の発表の良いところを書かせるようにする。
	11	「発明！便利なもの」の発表会をする。 ・学年で行う。		☆一人一人の感じ方の違いがあることに気付いている。 (㊟ノート・短冊)
	12	学習の振り返りをする。		○「学習を通してわかったこと」、「学習を通してできるようになったこと」、「これから取り組んでみたいこと」の 3 観点でノートに書くことを伝え、学習の振り返りをさせる。 ☆今までの学習を生かし、「便利」ということについて、もう一度自分の考えを整理している。 (㊟ノート・発言)

6. 本時の指導（1／12）

（1）目標

「便利ということ」を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。

【思考力・判断力・表現力】（C（1）オ）

（2）展開

時配	学習活動と内容 ◎教師の発問 ・子どもの反応	○教師の留意点 ☆評価（方法）
3	1. 「便利」という言葉について考える。 ◎便利って何ですか？ ・使いやすいものです。 ・そのはさみです。	○「便利」という言葉について話し合い、これから学習をする内容の確認をする。 ○想像がつかない児童のために、身近にあるはさみを提示する。
2	2. 学習問題を確認する。 筆者の伝えたいことは、どのようなことだろうか。	○「便利」について考えるために、教材文を読んでいくことを全体に伝え、学習問題を提示する。
1 5	3. 着語読みをする。	○着語読みによって適宜説明を加えたり、内容を確認したりしながら読むようにする。
5	4. 「便利ということ」の文章中で、筆者の伝えたいことはどのようなことかを話し合う。 ◎教科書の中で、筆者がみんなに伝えたいことって何ですか？ ・便利はたくさんあるということです。 ・設備も便利だよってということです。 ・大体教科書の1番最後に書いてあるから、このことだと思います。	○既習の説明文を思い出させて、まとめの文章はどこに書いてあるか、考えられるようにする。
5	5. 教師モデルと出会い、単元でどのような学習をしていくのか見通しをもつ。	○タブレットを大型モニターに映し、視覚的に見やすくする。 ○教師モデルは、どのような作り方をしたのか子どもたちに説明をしながら提示をしていく。
1 0	6. 単元の計画をつくる。	○「発明！便利なもの」を作成するために、どのような学習をしていけば良いか、子どもの発言で作成できるようにする。
5	7. 国語日記を書く。	○今日学習をしてわかったこと、これから学習したいこと、調べてみたいことの視点で日記を書かせる。 ☆「便利ということ」を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（㊟ノート）